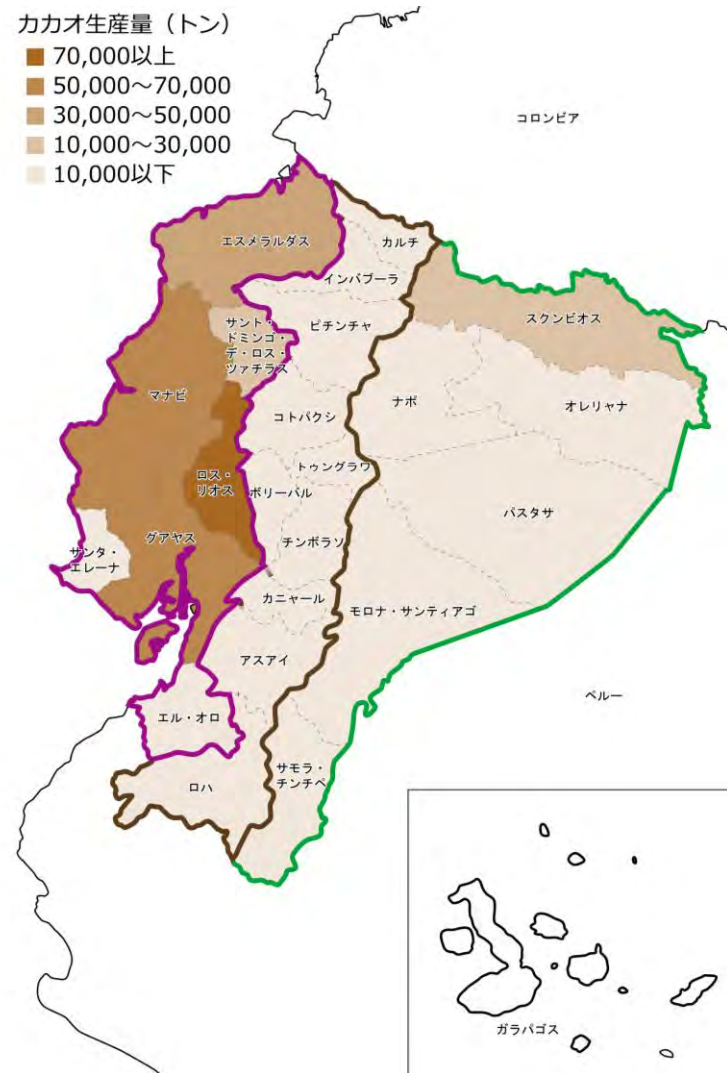


# エクアドルの植生と主要なカカオ産地

- エクアドルの生物群系には、太平洋沿岸、アンデス、アマゾン、ガラパゴス諸島の4つに分類される
- 特に、太平洋沿岸地域で多く生産されているが、農業畜産省によりほぼすべての県でカカオ生産プロジェクトが導入されている。

エクアドルの主要なカカオの生産地（2019年）

| 順位 | 地名                  | 生産量<br>(トン) |
|----|---------------------|-------------|
| 1  | ロス・リオス              | 77,095      |
| 2  | グアヤス                | 62,770      |
| 3  | マナビ                 | 58,426      |
| 4  | エスメラルダス             | 33,034      |
| 5  | サント・ドミンゴ・デ・ロス・ツァチラス | 27,165      |
| 6  | スクンビオス              | 14,048      |



出所：Kleemann, J.; Zamora, C.; Villacis-Chiluisa, A.B.; Cuenca, P.; Koo, H.; Noh, J.K.; Fürst, C.; Thiel, M. Deforestation in Continental Ecuador with a Focus on Protected Areas. Land 2022, 11, 268. <https://doi.org/10.3390/land11020268>, conexión ウェブサイト、農業畜産省資料より作成

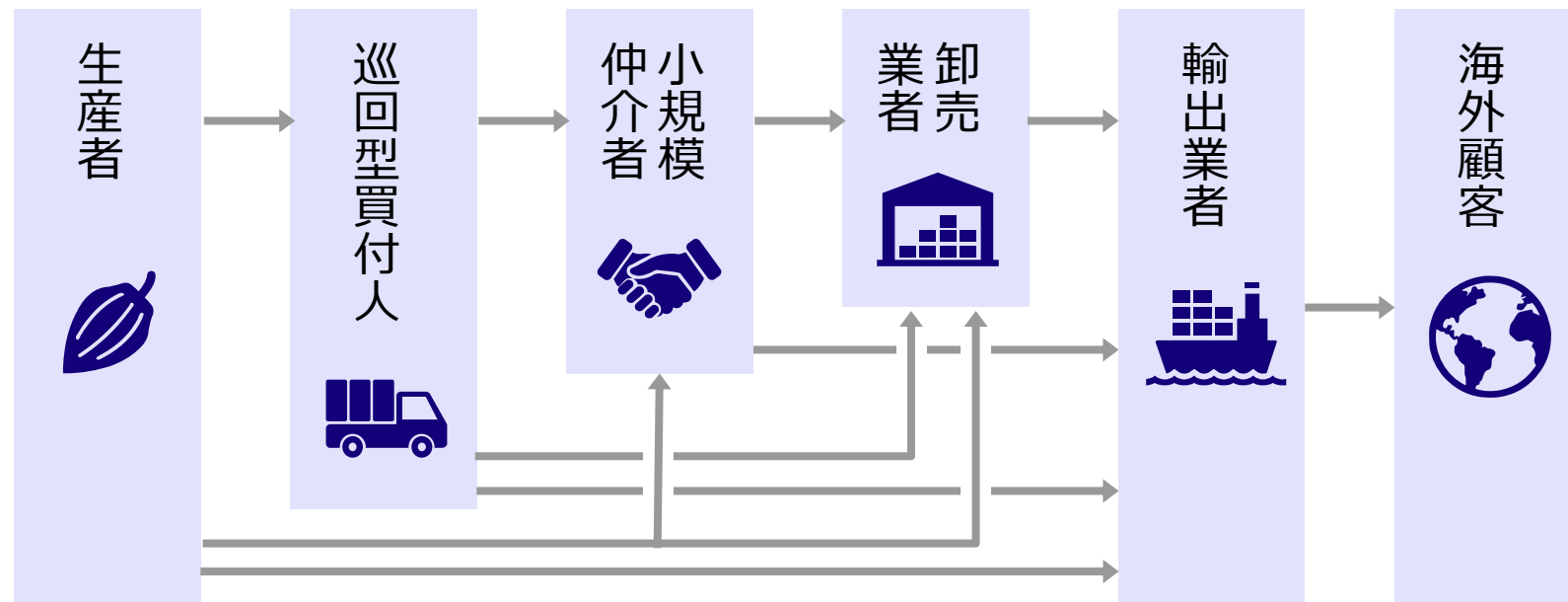
# エクアドルにおける持続可能性に配慮したカカオ産業振興政策

- エクアドルでは、国際機関、NGO、チョコレート製造業者等が農家に対して認証取得を支援することが多い。
  - ✓ 認証を取得するためには、農家がインセンティブを意識して実施する必要がある。特に、農業者団体で認証を受ける際には、メンバー全員がデイスプリン（discipline：自分たちをある程度コントロールする規範）を遵守する必要があり、生産者が消費市場の需要を理解し、「何を・どこまで・どのようにやるか」ということを理解する必要がある。
  - ✓ こうした活動を支援するために、NGO等が協力体制を構築している。
- 2015年7月に、エクアドル貿易省とUNCTADが作成したエクアドルの「グリーン輸出及び製品に関する国家行動計画」を採択した。
  - ✓ 認証取得に直接結びつくものではないが、カカオ豆生産等において、環境保護、生産性の向上による労働者の労働条件の改善等を目指すもの。

# カカオのサプライチェーン（エクアドル）

- カカオ豆の商流としては、生産国で生産者から輸出業者に販売され（仲買業者を介することもある）、輸出業者が残留農薬等の基準を満たしているかチェックした後、商社を経由して日本企業へ販売される。
- 一般的に、エクアドルのカカオは小規模農家で生産が行われている。また、生産地がエクアドル全土に渡るため、唯一の輸出港であるグアヤキル港に集荷する必要がある。仲買人、卸売業者等の仲介者を経て、輸出業者の手に渡るという構造である。
- エクアドルでは、仲介者の追跡ができないため、トレーサビリティが確立されていない点が課題である。トレーサビリティが確立できないため、品質管理が難しく、高付加価値化に結びつかないと言われている

エクアドル国内の主要なカカオの商流



出所：Jano, P.A., & Mainville, D.Y. (2007). The Cacao Marketing Chain in Ecuador : Analysis of Chain Constraints to the Development of Markets for High-Quality Cacao.、フランススコ・ミランダ（2021）「世界におけるエクアドル産カカオ豆の差別化」エクアドル・サステイナブル・カカオ国際フォーラムプレゼンテーションより作成



## 1. カカオ（エクアドル）

---

- 1-1 エクアドルの概要
- 1-2 エクアドル産カカオの現状
- 1-3 サステナビリティに関連する課題等
- 1-4 エクアドル産カカオの品質・量の安定調達のための取組の方向性

# カカオにかかるサステナビリティ課題

- SDGsの観点からカカオ豆は非難の対象とされやすいと言われており、各メーカーはサステナビリティの取組に関する対外的PRを行う
- グローバルで議論されているカカオ生産にかかる主要なサステナビリティ課題は大きく4点
  1. 児童労働：コートジボワールとガーナのカカオ栽培地域で児童労働にあたる子供の割合は、2008～19年の間に31%から45%へと14ポイント増加。
  2. 森林破壊：カカオの生産による森林減少と森林劣化によって引き起こされる気候変動・生物多様性の損失への影響
  3. カカオ農家の貧困：生活所得（Living Income）が不足。女性のエンパワメントと人権（児童労働、移住労働者の搾取構造、子供の人身取引）がキーワードとして挙げられる。ただし、エクアドルでは、カカオ豆は貧しい農家が生計を立てるために生産するものではなく、輸出作物として位置づけられていることから、児童労働等アフリカ等で散見される問題は多くはないと言われている。
  4. 合成肥料及び農薬の過剰使用：残留農薬が高濃度で輸出（販売先での輸入）ができない場合がある。

## カカオにかかるサステナビリティの課題整理

|     | サステナビリティに関する課題    | 具体的な事例（赤字は特にエクアドルでの課題）                                                                                                                  |
|-----|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境面 | 生態系へのダメージ         | <ul style="list-style-type: none"> <li>森林減少及び森林劣化による生物多様性の損失</li> </ul>                                                                 |
|     | 温室効果ガス（GHG）排出量の増加 | <ul style="list-style-type: none"> <li>森林減少及び森林劣化による温室効果ガスの吸収源の減少</li> <li>異常気象（乾燥、降雨の増加、基本の変化、日射量の変化、湿気の増加）による生産被害</li> </ul>          |
| 社会面 | 先住民・地域住民の権利侵害     | <ul style="list-style-type: none"> <li>先住民の土地の所有権・利用権の侵害</li> </ul>                                                                     |
|     | 労働者の人権侵害          | <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模農場での労働力搾取（不適切な賃金支払いなど）</li> <li>労働安全の不遵守</li> </ul>                                           |
|     | 子供の人権侵害           | <ul style="list-style-type: none"> <li>農場における児童労働及び子供人身取引等による子供の教育機会の喪失</li> </ul>                                                      |
| 経済面 | 貧困                | <ul style="list-style-type: none"> <li>農家に対する低価格での買取、生産コスト増、低い生産による貧困とそれによる栄養失調</li> <li>合成肥料及び農薬の過剰な使用による残留農薬の影響で、海外で売却できない</li> </ul> |

出所：「Hütz-Adams, F., Campos, P., Fountain, A.C. (2022): Latin America Baseline Cocoa Barometer, 2022」, 「シカゴ大学の世論調査センター（NORC）（2020）調査報告書」より作成

# 持続可能なカカオの調達手法

- 持続可能性なカカオの調達手法には、大きく3つの手法が存在
- 調達コストと「持続可能性」担保の信頼性（トレーサビリティ）が重要
  1. **第三者認証**：“サステナビリティ”の基準に則っているということを**第三者機関に検証（認証）**されたカカオの調達
    - ・ 認証カカオ豆と呼ばれている。第三者が決めた基準に則ったカカオであり、トレーサビリティが重視されていないため、「生産者の顔が見える関係が構築できない」という点が課題の一つであると言われている
    - ・ 監査が年1回程度である場合もあり、生産地の実態を把握できていないという批判も存在する
  2. **独自認証（認定）**：“サステナビリティ”の基準に適したプログラムを実施したと（主に）**中間加工事業者に認定**されたカカオの調達
    - ・ サステナブル豆と呼ばれている。NGOと連携して独自でプログラムを組成している
    - ・ カカオ豆ではなく、調製品を購入している中小チョコレートメーカーであっても調達が可能
  3. **独自プログラム**：NGO等と提携して独自プログラムを実施することで**最終消費財メーカー自らがサステナビリティを担保**した農家から調達
    - ・ サステナブル豆と呼ばれている。NGOと連携して独自でプログラムを組成している
    - ・ 自社の求めるサステナビリティ基準に則ったカカオを調達できる



## 1. カカオ（エクアドル）

---

- 1-1 エクアドルの概要
- 1-2 エクアドル産カカオの現状
- 1-3 サステナビリティに関連する課題等
- 1-4 エクアドル産カカオの品質・量の安定調達のための取組の方向性

# EUにおける持続可能なカカオのプラットフォーム

- 欧州では主要なカカオ加工国であるドイツ、オランダ、チョコレート製造の盛んなベルギー、スイスでは、それぞれ持続可能なカカオの調達のためのプラットフォームが設立されており、プラットフォーム間でもMOUを締結。
- 児童労働、人権デューデリジェンス、中小企業のリスク評価に関しても、共通の指標をプラットフォームで作る見込み。
- 各国のプラットフォームの概要は以下のとおり
  - ✓ Beyond Chocolate：ベルギーのカカオプラットフォーム。主導するグローバルなバリューチェーンで持続可能な貿易の実現を目指すIDH（sustainable trade initiative）のトップが政治的公約の下で、チョコレート産業においても持続可能な調達を進めていくことを明示。「認証カカオであるサステナブルカカオの割合をチョコレート市場の〇%とする」といった目標を年ごとに定めて、プラットフォームの年次総会での進捗報告を実施
  - ✓ the Swiss Platform for Sustainable Cocoa：スイスのカカオプラットフォーム。連邦経済省経済事務局（SECO）が主導しており、60以上の利害関係者が参加。2025年までにスイスへ輸入されるカカオ豆の80%を持続可能なカカオとすることを目標に掲げている。持続可能なカカオを「カカオ農家とその家族の適正な生活条件のために努力し、気候の緩和と適応を促進し、生物多様性を保護し、現在と将来の世代のために経済的に実行可能で透明性のあるカカオのバリューチェーンを目指すシステムから生産され、供給されている」と定義。
  - ✓ The German Initiative on Sustainable Cocoa (GISCO)：ドイツのカカオプラットフォーム。連邦食糧・農業省と連邦経済開発協力省がメンバーとなっており、イニシアチブを発揮。2019年にサステナブルカカオに関するコミットメントを宣言。持続可能なカカオにかかる目標（10ポイントプラン）では、イニシアチブをとること、認証を増やすこと、自国から統一の基準をつくること、標準システムを作ること、消費者への啓発を実施すること、カカオ農家の貧困問題の解決に寄与すること、森林保護に資すること、女性のエンパワメントに取り組むこと、児童労働の撤廃に取り組むことを宣言。2020年の目標、長期的な目標として認証済みのカカオ豆を使用拡大のコミットメントも含む

## 持続可能なカカオに関する海外企業の取組

- 世界で売上額が上位のチョコレートメーカーのうち、海外のチョコレートメーカーは以下のとおりであり、各社がサステナブルなカカオ豆調達に向けた取組を行っている

| 企業名                   | 本社所在地 |
|-----------------------|-------|
| マース（Mars）             | 米国    |
| フェレロ（Ferrero）         | イタリア  |
| ハーシーズ（Hershey）        | 米国    |
| ネスレ（Nestle）           | スイス   |
| リンツ（Lindt & Sprungli） | スイス   |
| Pladis                | 英国    |



## 2. 大豆（ブラジル）

---



## 2. 大豆（ブラジル）

---

- 2-1 ブラジルの概要
- 2-2 ブラジルの大豆産業振興策
- 2-3 ブラジル産大豆の現状
- 2-4 ブラジル産大豆のサプライチェーン
- 2-5 サステナビリティに関連する課題等